歩いて発見。津の魅力

127

歴史散歩

香良洲漁港の今昔

香良洲地域の北東部、雲出古川の河口に香良洲漁港があります。この港は昭和17～20年に「予科練」として知られる旧三重海軍航空隊が、水泳訓練を行ったり訓練用の短艇をつなぎ留めたりしていた係船池跡を利用して、昭和34年に工事が始まり現在の形に整備されました。

それ以前は、海岸に漁船を係留し、浜を荷揚げ場として利用していたようです。明治時代末ごろの絵葉書を見ると、浜に数艘（すうそう）の木造船が引き揚げられています。

香良洲の漁業の歴史は古く、香良洲漁業協同組合には、「矢野」と呼ばれた当地が江戸時代に漁業権を得るに至った経緯、隣接する津藩や紀州藩の村々との間で起きた漁場をめぐる争いの経過など、漁業権や浦年貢についての歴史を記した古文書が保管され、これらは津市指定文化財となっています。

また、矢野浦には室町時代に「新警固（けいご）」という海の関所が設けられていたとの記録があります。新警固では、北畠氏などの時の領主権力が、伊勢神宮の保護を受けて伊勢湾を航行する廻船から通行税を徴収していました。矢野浦の利権を巡っては、伊勢神宮が関所を設置した北畠氏に対してその停止を求めています。当時の関所がどのように設置され、機能していたのかは定かではありませんが、中世の矢野浦が伊勢湾西岸の物流の要衝であったことがうかがえます。

漁港を後にして海岸堤防に上ると、浜には投げ釣りを楽しむ人の姿が見られます。穏やかな伊勢湾、遠くに知多半島や渥美半島、神島などの島影を眺めながら、打ち寄せる波音に歩みを合わせて、ゆっくりと海岸の散策を楽しんでみてはいかがでしょうか。

香良洲漁港

香良洲海岸 矢野の漁村／絵葉書（津市図書館蔵）